

東京大学(三崎)理学部臨海実験所が完成しました。



Photo 1

東側外観



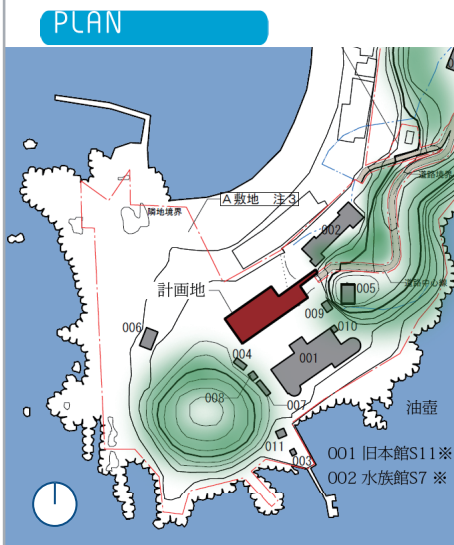
Photo 2

演習実習室

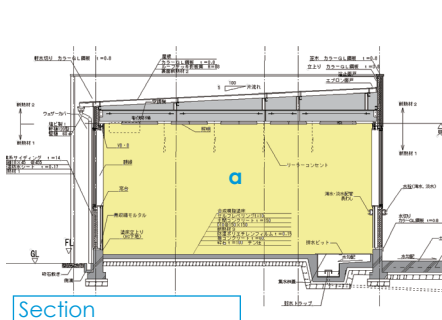


Photo 3

入口付近



Site

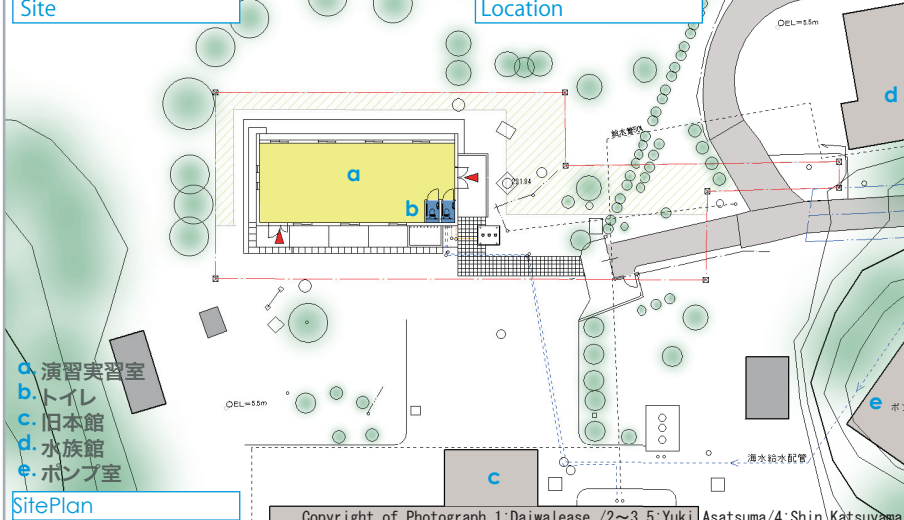


Section



Photo 5

Location



SitePlan

Copyright of Photograph 1:Daiwalease, /2~3, 5:Yuki Asatsuma/4:Shin.Katsuyama

CONCEPT

油壺の透明な海と
歴史ある建物群との調和

油壺の透明な海と、昭和初期の建物が残る自然・歴史の豊かな立地である。設計のテーマは、自然と歴史ある建物群との調和であった。そのため、簡明な建物形態とし、外壁はレンガ調とした。海際という過酷な環境に配慮し、十分な断熱性を持たせるとともに屋根材には耐塩害に優れた塗装ガルバリウム鋼板を採用。海洋生物飼育の機能上の要請から自然換気に配慮し、天井近くに達する建具とした。また、既存樹木の伐採は行っていない。



Photo 4

レンガタイル張りの旧本館を油壺から望む ※内田祥三設計

DATA

- 敷地面積 : 494.92㎡
- 建築面積 : 98.08㎡
- 延床面積 : 98.08㎡
- 建ぺい率 : 19.82%(許容50%)
- 容積率 : 19.82%(許容100%)
- 構造・規模 : S造、平屋、直接基礎
- 最高高さ : 4.250m
- 軒高 : 3.455m
- 天井高さ : 3.00m
- 主なスパン : 1.8m×6.37m
- 設計期間 : 2017.05~2017.09
- 工事期間 : 2017.11~2018.02

TOPICS

境界不明確、市街化調整区域の敷地で新築の計画通知を通す。

全体敷地は6万平方メートル程度、境界不明確。基準法制定以前の未申請の建物が数多くある敷地である。計画通知を含めた設計を5カ月で終了させなければならなかった。そのため、計画建物の敷地を全体の敷地から切出すことを行政の了解のもとに実施した。残りの敷地の建物が集団規定を満たしていることを12条5項により報告した。市街化調整区域での新築は、その公益性から建築許可された。

▶ <http://www.nissoken.co.jp>